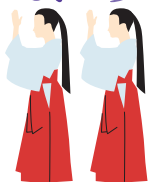




やまどの 神さま



南市恵毘須神社は、

奈良市の中心市街地にあるもちいどのセンター街に隣接する南市町に鎮座します。南市という市は鎌倉時代に開かれたときれ、高天市、北市とともに「南都の三市」と呼ばれました。

この神社は春日大社の境外末社で、鎌倉時代の

南市恵毘須神社 (奈良市)



創建と伝わります。本殿は一間社春日造、祭神は

(住所) 奈良市南市町28

(祭神) 事代主命

(交通) 近鉄奈良駅から徒歩約10分、JR奈良駅から徒歩約

20分

(見学) 境内は普段、立ち入り禁止。祭事の時のみ開放

(駐車場・電話) なし

事代主命ことしろのみことで、えびす様とも呼ばれます。市場の守護神としてお祭りされ、招福と商売繁盛の神様として有名です。

1月4日に宵宮、翌5日に本祭の初戎はつふゆが行われます。県内で年の初めの最初の「えびす祭」と言

われ、「五日えびす」との呼称でも名高く、多くの参拝者でにぎわいます。かつては県内の数あるえびす祭で最もにぎわったと伝わります。大正時代には歌人の会津八一も訪れ、「笹の葉に鯛吊り下げてあをによし奈良の巷は人の波打つ」(原文はかな)と往時の様子

を伝えていきます。1965年ごろまで芸者を乗せた宝篋ほうえだが繰り出していました。

春日大社を神仏習合の観点で描いた春日曼茶羅まんじらを保有する南市町自治会が日ごろから神社の世話をされています。本祭では春日大社の神官や巫女みこによる神事が行われ、同自治会えびす講が吉兆笹を販売します。

(奈良まほろばソムリエの会会員 松森重博)

商売繁盛「五日えびす」